

水戸市長選挙の結果について（声明）

2015年4月27日 明るい水戸市をつくる会

【1】4月26日投票の水戸市長選挙で、「明るい水戸市をつくる会」の大内くみ子候補（日本共産党推せん）は、27,989票（27.7%）を獲得し、善戦・健闘しました。「明るい会」に参加され、日夜ご奮闘されましたみなさまと、大内候補にご支持を寄せてくださいました多くの市民のみなさまに心からお礼を申し上げます。

【2】同時に、「明るい会」の有力な構成団体である日本共産党の3人の市議会議員候補者と連携し運動することができました。その結果、3候補とも大激戦を勝ち抜き、全員が3千票を超えて（合計9,793票）当選を果たすことができたのは大きな喜びであります。

【3】大内候補が獲得した得票は、昨年12月総選挙の日本共産党比例票（水戸市13,748票）の2倍、小選挙区茨城1区の水戸市で大内氏が獲得した20,759票を上回り、過去「明るい会」の岩清水理候補（2007年）の22,638票、県知事選「明るい民主県政をつくる会」の田中重博候補（2013年）の26,842票（水戸市）をも上回るものでした。

【4】今回の市長選挙で大内候補と「明るい会」は「951億円の4大事業は見直し、くらし・福祉、教育優先の市政に」「東海第2原発は廃炉へ」「安倍政権の戦争する国づくりは許さない」を中心的に訴え、選挙戦をたたかいました。とりわけ、「市民会館の300億円は白紙に戻し、市民参加で再検討します」という主張は、共感を広げました。その他の政策についても市民の期待が日増しに広がりました。しかし、得票をさらに伸ばし当選にいたるには、期間と力が足りませんでした。

【5】一方、高橋市長は、自民、公明、民主の推せんと「約400の団体・企業から推せんを取り付け、盤石の態勢」（茨城新聞4月27日）で市長選に臨みました。しかし、3党の14年総選挙比例票（75,891票）を下回る73,125票にとどまり、水戸市の有権者（216,448人）の33.8%の支持に終わりました。政策的には、4大プロジェクトなる大型公共事業の推進を目玉に市民の生活をさらに苦しめる方向を打ち出しました。

【6】今回の市長選で大内候補は立候補発表（3月13日）以降、448回の街頭演説（告示日から193回）を行い、市民との対話、施設などへの訪問等で政策を訴え、要望を聞いてきました。「明るい会」は、参加する団体と個人が懸命に選挙戦をたたかい、今後生きる貴重な教訓をつくりました。

今後、市民のみなさま、そして日本共産党市議団、市民団体などと連携を広げ、高橋市政に市民犠牲の無謀な大型事業を見直しをさせるとともに、市民生活の向上、東海第2原発の廃炉、「戦争立法」阻止のための運動をしていきます。

これからも一層のご支援、ご協力を心からお願いいたします。

以上